

# 施設概要

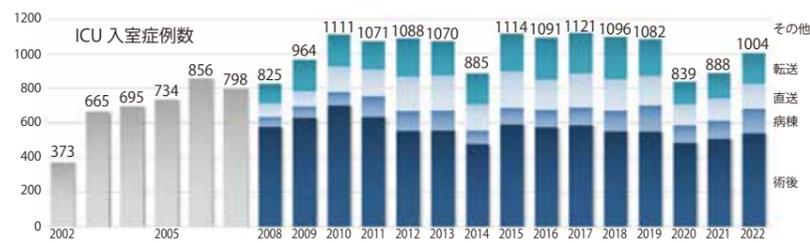
名称 国立成育医療研究センター病院  
 所在地 東京都世田谷区大蔵2丁目10番1号  
 病床数 490床  
 診療科 28科  
 告示 東京型ドクターヘリ協力病院  
 専門医 小児科専門医基幹病院  
 施設認定 日本集中治療専門医研修施設認定  
 日本呼吸療法専門医施設認定



救急告示病院  
 救急科専門医連携病院 (日本大学医学部附属板橋病院 災害医療センター 国立国際医療研究センター)  
 (日本医科大学千葉北総病院 川崎医科大学附属病院)  
 日本救急科専門医指定施設認定 日本小児科専門医研修施設認定

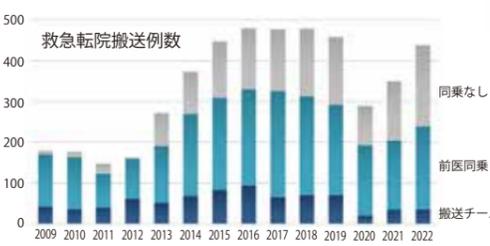
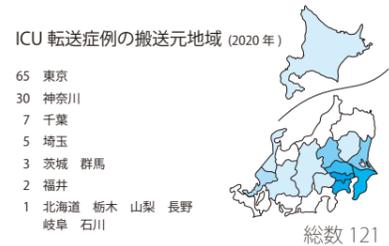
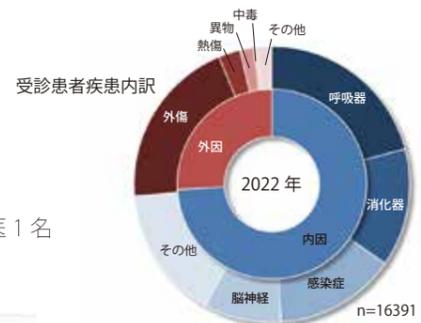
# PICU 概要

病床数 20床 (小児特定集中治療管理料加算20床)  
 医師数 常勤医10名、非常勤医5名、フェロー11名、  
 小児科専門医15名(指導医5名)、  
 集中治療専門医8名(指導医4名)、救急科専門医3名、移植認定医1名、  
 呼吸療法専門医2名、麻酔科標榜医2名、麻酔科専門医1名、  
 PALS instructor 5名、JPLS instructor 2名、日本DMAT 1名  
 コメディカル 看護師80名、薬剤師2名(日勤常駐1名)、理学療法士3名



# ER 概要

診療室 初療室1、診察室7、観察ベッド6  
 医師数 常勤医9名、フェロー4名  
 小児科専門医8名(指導医5名)、救急科専門医8名、麻酔科認定医1名  
 麻酔科標榜医2名、日本DMAT 2名、PALS Instructor 5名



## 重症患者の転院・搬送の依頼

PICU (代表) 03-3416-0181  
 にかけて PICU 医師につなぐようお願いください。  
 搬送チーム 03-5494-7073 (内線 7995)  
 (FAX 03-5494-7493)

## 小児集中治療・救急 見学研修希望者募集

応募資格 初期臨床研修修了後、採用時点で少なくとも1年間以上の後期臨床研修を受けた者(麻酔科・ICU・救急・小児科のいずれかの後期研修を経験していることが望ましい)。  
 問い合わせ acute\_critical\_care@ncchd.go.jp



# Critical Care & Emergency Medicine

国立成育医療研究センター病院  
 集中治療科・救急診療科





# PICU

すべての小児救命救急および集中治療患者に  
対応できる実践的能力を備える



# ER

内因系、外因系を問わず、  
すべての小児患者の初期診療を適切に行う

## 圧倒的な 重篤小児の症例数

救急車・ヘリ・固定翼機により全国から重篤小児が集まり、多くの直送の緊急入室もあります。圧倒的な症例数・症例のバリエーションを背景に、フェロー1人当たりの経験数は国内随一を誇り、将来像（小児集中治療/小児科/救急/麻酔）に合わせて2-3年間の研修をフレキシブルに行えます。集中治療専門医を取得するのに十分な症例を経験する事が可能です。

## 充実した教育活動

中心静脈ライン確保・気管挿管・気管支鏡、外科的気道確保等などの侵襲的救命処置は、事前にシミュレーターを用いた off the job トレーニングで技術を習得します。体系的な小児評価・蘇生のシミュレーションも定期的に行っています。また、小児専門施設国内唯一の National center であり、臨床研究センター・研究所を併設しているため、仮説の設定、臨床研究のデザイン、データの解釈、統計解析まで経験豊富なスタッフ・専門家に相談しながら、臨床研究にも挑戦することが可能です。アカデミアとの連携も行なっています。

## 急性血液浄化療法 / 肝移植

劇症肝不全や急性腎障害、先天性代謝異常症など様々な病態に対して急性血液浄化療法を施行しています。透析の適応の判断、病態に合わせた透析の施行方法の選択、透析回路の理解、透析のトラブルシューティングに至るまで、新生児から成人までの急性血液浄化療法を学ぶ事が可能です。肝移植も盛んで周術期管理を学べます。

## 豊富な症例数と 多彩な疾患

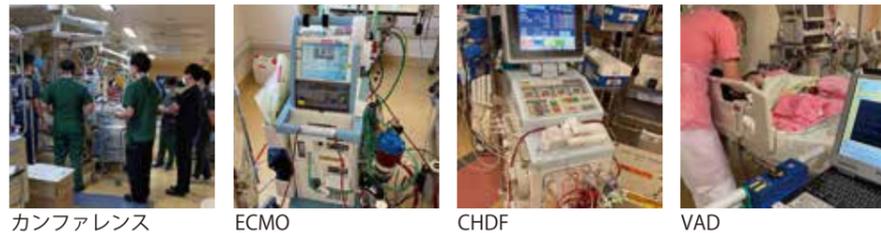
当院は365日あらゆる小児に開かれた病院であり、年間3万人前後が来院します。呼吸器感染症・尿路感染症・川崎病などの common な疾患から、循環器・内分泌・腎臓などに基礎疾患のある症例など、多彩な疾患が経験できます。呼吸循環不全や急性脳症などの緊急疾患も多く経験でき、PALS をもとに早期認識と介入を実践し、習得することができます。

## 外傷症例の 受け入れ

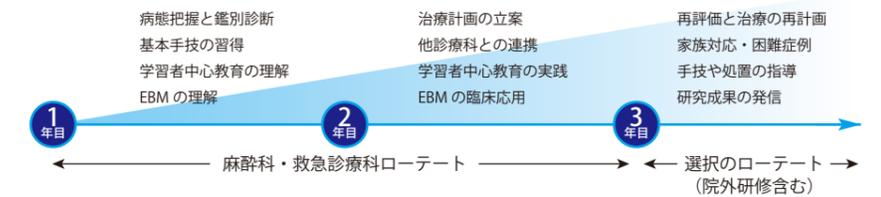
小児科出身の医師には不慣れな外傷であり、救急科出身の医師には不慣れな小児ですが、スタッフが指導しながら診療を行います。小児の外傷は軽症が多い一方で、高エネルギー外傷でない臓器損傷症例が潜んでいることも特徴です。当院の受診患者の約25%は外因系疾患であり、ウォークインからホットラインまで対応している当院の研修はとて有意義なものになります。

## 教育の充実と 研究の促進

毎日朝夕に教育の時間を設けています。曜日ごとにプログラムを組み、シミュレーショントレーニングや手技練習、抄読会、スタッフによるレクチャー、症例検討会なども行っています。また、フェローは各々研究テーマを持ち、学会発表や論文執筆を行います。病院全体で行われている臨床研究セミナーへの参加や統計学の専門家に研究デザインへの作成などの相談もできます。



## PICU 研修プログラム



主要な治療	例/年間	延べ日数(日)
人工呼吸 (CMV)	416	2839
持続血液濾過透析 (CHDF)	32	432
血漿交換 (PE)	25	101
体外式膜型人工肺 (ECMO)	8	79
2022 年実績		
フェロー1人あたりの主要な手技(件/年)		
挿管(経口/経鼻)	18.2 / 16.5	
中心静脈ライン (CV/PICC)	10.5 / 31.2	
2022 年実績		



## ECMO / VAD

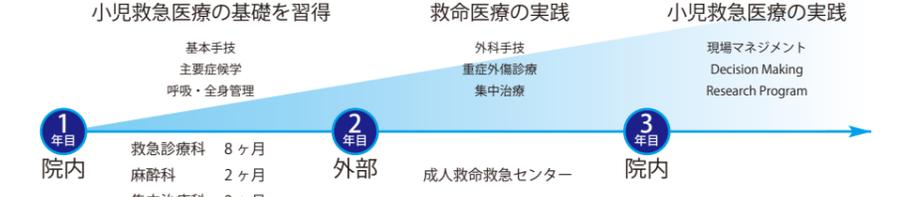
ECMOは内科的治療で管理困難な循環不全・呼吸不全管理の最終手段で、小児の蘇生においても使用されます。小児 ECMO 施行数は国内有数で、良好な成績をあげています。近年、VAD(補助人工心臓)や心移植も施行されるようになり、豊富な症例を通して、導入から管理、離脱までを経験する事が可能です。

## 多職種チーム医療

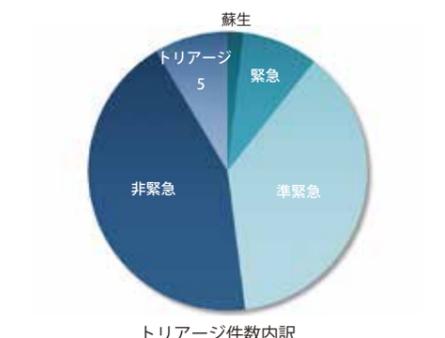
専任薬剤師が PICU 内に常駐し、重大な薬物相互作用発生や薬剤処方関連エラーを防いでいます。理学療法士によるリハビリテーションを、入室した重症小児患者に対しては全例依頼し、早期から積極的に実践しています。ソーシャルワーカー、CLS(Child life specialist)、心理士、栄養師、こころの診療部、緩和ケア科など、多職種との密なコミュニケーションにより医療安全推進や患者 QOL 向上を実現しており、PICU 研修を通してチーム医療の一翼を担う経験を積むことができます。



## ER 研修プログラム



	例/年間
救急受診者数	16,391
1日あたり	44.9
救急車搬送	223
1日あたり	6.1
入院患者	1999
2022 年診療実績	



## 国内有数の 小児搬送医療

重症患者の病院間搬送と集約化も大きな特徴であり、救命率の向上に寄与するとともに、重症患者診療を集中して研修できます。小児の重症患者搬送という特殊な分野を、経験豊富なスタッフとともに実践し研修する事ができます。また、症例の重症度や緊急度、搬送距離、天候などにより、救急車、ドクターカー、ヘリコプター、固定翼、新幹線など様々な手段からの選択や、搬送チームがどのように関わるかなどのマネージメント面の経験もできます。